

6

失敗の本質

2021.02.08

2021.01.04

2020.12.07

2020.12.04

③ 1940. 9 日独伊三国同盟

戦争の原因は、どこにあったのか？

中国への侵略、日独伊三国同盟、組む相手のレベル、トインビー

① 1941. 12 真珠湾攻撃

何故、負ける戦争をしたのか？

英米の圧力、陸軍の見通し、海軍の意見、客観的な見通し

② 1945. 8 敗 戦

事前に又は途中で中止する方法はなかったのか？

先行する第二次世界大戦、英の反撃、独の独走と失敗

- ① 1933.3 国際連盟のリットン報告書採択(満州事変)に反対して、
日本が連盟脱退通告(松岡首席代表)
- 1939.7 米、日米通商航海条約の破棄(石油等軍需品の禁輸)
- 1937.7 盧溝橋事件に始まる日中戦争、中国への多大の迷惑
- ③ 1939.7～8 独・ソ不可侵中立条約成立(ヒトラーの独走)
- 1939.8 ノモンハン事件、日本軍はソ連の機械化部隊に敗退
独と防共協定を結んでいた日本
進行中の日独伊三国同盟は中止
独、ポーランドに進攻
- 1939.9 第二次世界大戦が勃発 (2年3ヶ月前)
- 1940.4～8 独ヒトラーの快進撃、デンマーク、ノルウェー、ダンケルク、仏降伏
- 1940.8 独ヒトラーのロンドン大空襲の失敗、英チャーチルの反撃
- 1940.9 日独伊三国同盟成立 (1年3ヶ月前)(ナチズムとの共闘)
- 1941.4 日ソ中立条約成立
- ① 1941.6 独ヒトラー、不可侵条約を破棄、ソ連に宣戦(1941.11モスクワ攻略失敗)
- 1941.7 日本軍、南部仏印へ進駐(資源、特に石油を求めて)
- 1941.12 日本軍真珠湾攻撃、太平洋戦争開始(対米戦力比ピーク時で70%、1年半限度)
- ② 1942.8 独ソ、スターリングラードの攻防戦開始
(1943.2独軍スターリングラードで全滅)
- 1945.8 広島、長崎に原爆(8日)、ソ連対日参戦(8日)
ポツダム宣言受託(14日)

日米開戦の選択肢

2020.12.04

開 戦	中 止	臥薪嘗胆
1. 現下の危機を打開するために、時機を12月初頭と定め、作戦準備をする (11/25 御前会議)	1. 対米交渉が12/1 午前0時に成功すれば武力発効を中止する	1. 米との外交交渉がうまく行かなくとも、開戦は回避し、対米交渉を継続する 日中の国交回復 アジアからの撤退 三国同盟からの脱退 を行う
2. 開戦、中止、臥薪嘗胆、どうなるか解らないから開戦が選択された	2. 国力の低下は明らか	2. 国際情勢の変化に頼る 独の限界と敗北 日独伊 対 米英 から 資本主義国 対 社会主義国
3. 開戦後の成算なしといふ、開戦は避けられない 万一の僥倖に賭ける	3. 将来的に確実な敗北となる	3. 国際環境の好転 No.2 による米英との関係修復

△カケ
×

×見込なし
△

○見込があるかもしれない

戦争は避けられなかったのか (真珠湾から沖縄戦)

2020.11.16

第二次世界大戦で日本が負けた原因は何であったのか。

「失敗の本質」(1984.5 ダイヤモンド社刊 野中郁次郎外著)を読んだが、それは、戦闘に負けた要因の理論化であり、過去の成功体験への根拠のない依存への反省であった。日本陸軍は、奇襲と白兵戦による銃剣第一主義(米軍は火力重視の合理的な戦い)。海軍は、戦艦武蔵、大和に代表される大艦巨砲主義(米軍は空母と航空機による機動戦)。精神主義と米軍の豊富な物量への挑戦であり、既存の古い成功体験と新しい考え方との対決が失敗の原因であったという。

しかし、この考えは正しくない。敗戦(失敗)の本質は、戦闘ではなくもっと別のところにあったのではないか？日本は失敗前の反省を欠き、戦争突入前の十分な対策をとっていないと感じた。

(陸軍の戦争認識)

1941年初め九段の偕行社における秋丸機関の報告会における議論では、
「日本の戦力は、日中戦争の倍の戦争に耐えられるか」という問、

- (1) 人口の問題 兵力をどれだけ出せるか (有沢)
- (2) 生産力の問題 (中山)
- (3) 船と油の問題 資源の確保の問題 (武林)

結論は、倍の戦争は出来ないという冷静なものであった。

これ以上続けると日本の生産力はなくなり、生活力さえなくなるというものであった。(それなら開戦を回避又は延期すべきであった)

秋丸の回想では、米日の経済力は 20 : 1 というものであった。

しかし、結局 11 月 26 日にハル・ノートが提示され、日米交渉は頓挫し、残された唯一の選択肢であるとして「開戦」が選ばれることになる。

昭和 21 年に昭和天皇が側近に語った記録で、「実に石油の輸入禁止は日本を窮地に追込んだものである。かくなった以上は、万一の僥倖に期しても、戦った方が良いという考えが決定的になったのは自然の勢いと云わねばならぬ、…」と言われたとのことであった。

結局のところ、日本は「戦争の終末」の見通しなく、そしてそれゆえに戦争を始めたのである。「開戦論を抑える」ためには、「3 年後でもアメリカと勝負ができる国力と戦力を日本が維持できるプラン」を数字によって説得力を持たせて明示し、時間を稼ぎ、その間に国際環境が変化するのを待つことが必要であった。そしてそのチャンスは本当に無かったのか。

チャンスはあったと私は考える。

(日米和平交渉)

第二次世界大戦直前の1941年2月から12月8日の真珠湾攻撃までの期間、日米国交調整を目的として行われた外交交渉。日米関係の悪化を防ぐため、41年2月第二次近衛内閣は野村吉三郎を駐米大使に任命し、日米交渉を開始した。4月C.ハル国務長官と野村大使の間で、民間外交の結晶としての「日米了解案」が取上げられたが、松岡洋右外相は異議を唱え、強硬論に固執し、また三国同盟問題、中国撤兵問題などをめぐる双方の見解の差は大きく、交渉は難航した。6月独ソ開戦ののち日米交渉の妥結が急務となり、内閣はいったん総辞職して、日米交渉打切りを唱える松岡外相に代えて豊田貞次郎海軍大將を外相とする第三次近衛内閣が成立した。しかし7月下旬統帥部の主張によりインドシナ進駐が行われ、アメリカ、イギリスはこれに対抗して日本資産の凍結、石油の全面的禁輸を断行した。8月近衛首相は、F.ルーズベルト大統領との直接会談を求めたが実現せず、10月上旬にはインドシナ、中国からの撤兵受諾により交渉成立の見込みありとの主張が生まれたが、東条英機陸将は反対を続けた。このため近衛内閣は総辞職し、東条内閣がこれに代った。東条内閣は11月5日の御前会議で最後の対米交渉を甲、乙両案で進めることにし、11月中に交渉不成立の場合には12月初めに武力を発動する方針を決定した。11月26日アメリカは日本の満州国否認などを要求した「ハル・ノート」を手交し、日本は12月1日の御前会議で対米、英、オランダ開戦を決定し、日米交渉は決裂するにいたった。(ブリタニカ)

松岡外相や東条陸将などの戦争主義者の主張を、日米の戦力差(陸軍では米国20、日本1とも言われた)を見据え、国際連盟にとどまり、独伊との三国同盟に無益な拘束を受けることなく、将来の国益を議論すべきであった。開戦前の、40年8月のヒトラーのロンドン大空襲はイギリスの抗戦を招き、41年11月の独軍のモスクワ攻略は失敗し、翌年の1942年8月には、スターリングラードの争奪戦は第二次世界大戦中最大の激戦で1943年2月にはドイツ軍33万人が全滅した。欧州では戦況が変化し、第二次大戦後の米ソ二大勢力の対立も見抜けた筈である。

(ハル・ノート)

1941年11月26日、日米交渉で米国国務長官ハルが日本の野村、来栖両大使に提示したアメリカ側の対日提案。

- (1)日本軍の中国・インドシナからの完全な撤退
- (2)中華民国国民政府以外の中国における政府・政権の否認
- (3)日独伊三国同盟の廃棄

などを要求した。日本側は、これを真剣に検討することなくアメリカの最後通牒とみなし、太平洋戦争に突入したが、余りにも早計であった。

ハル・ノートの合理的な受諾こそ日本の最後のチャンスであった。

米、日米通商航海条約の破棄通告 (1939. 7. 26)

M44.2 ワシントンでの調印以来 30 年に渡って、日米友好の絆となっていた。しかし、日本の中国侵略、対ソ戦争などに対し、アメリカの軍需品の禁輸により日本に致命的な打撃と教訓を与えようとするものであった。板垣陸将は、直ちに三国同盟を締結すべきとしたが、石渡蔵相が、米内海相に「三国同盟を結ぶ以上、日独伊三国が、英米仏ソの四国を相手に戦争する場合もあるが、海軍に勝算はあるか？」と問った。元首相、海将の米内はあっさりと、「勝てる見込なし。日本の海軍は、英米を相手に戦争するようには建造されていない。独伊も問題にならない」と応えた。これで、三国同盟は、一旦打切りになった。

独、ソ不可侵条約 (1939. 8. 23)

ノモンハン事件(1939.5~9)の直後の日本にとって、独のソ連に対するこの条約はショックであった。

ソ連を対象とする日独防共協定の話合中(延 70 回、200 日)でもあり、ヒトラーの決定は、青天の霹靂であった。日独伊三国同盟は中止となった。

第二次世界大戦勃発 (1939. 9. 3~1945. 8. 15)

1936. 日独防共協定 (1937 伊も参加)

1937.7 日中戦争勃発

1938.8 独、オーストリア併合

1939.8 独ソ不可侵条約

1939.9 第二次世界大戦が勃発

1939.9.1 独はポーランドに侵攻、9.3 英仏は独に宣戦、ソ連もポーランドに侵攻、1939.11 ソ連はフィンランドに宣戦

1940.9 日独伊三国同盟成立

1941.6 独ソ戦が勃発

1941.12 太平洋戦争

第二次世界大戦の遠因

(1) 中国、インド、アラブ世界などの植民地、半植民地の民族解放闘争

1915. 対中 21 ヶ条要求 (中国の対日感情の悪化) (東洋の盟主となるチャンス)

(2) 1929.10 世界経済恐慌

(3) 1931. 満州事変

(4) 1933. ヒトラー政権の成立

(5) 結果として、枢軸国(ドイツ、イタリア、日本)と連合国(米、英、仏、ソ連)の戦争

(6) 第一次大戦の未解決問題

日独伊三国同盟(1940.9.27)

(ヒトラーの快進撃)

1940.5.1 ヒトラーは、西部戦線総攻撃命令を下した。

ドイツ国防軍の電撃作戦は、世界戦史に見られぬ鮮やかさであった。

5.14 オランダ降伏、5.17 ブリュッセル墜落、英仏ダンケルクから撤退、
6.14 パリを無血占領、6.22 フランス降伏……。

この世界情勢の激変が前年の夏に立消えとなった三国同盟を再燃させた。
この時、仏蘭の敗北に伴うアジアの資源地帯からの撤退は、陸海軍の南進
戦略として千載一遇のチャンスとする者が多かった。良識派の吉田海相
は、英を全面援助している米と準敵国関係になり、将来の日米戦を招くと
反対したが大勢には抗しきれなかった。

(松岡洋右外相の構想)

独の前年の(1939.8)独ソ不可侵条約と今回の三国同盟(1940.9)を結合し、
日独伊ソの四国協商を可能とし、米英と対抗できる旨を主張。

(日独伊三国同盟)

1939.8 突然に締結された独ソ不可侵条約により一時中断していた交渉が再
開。1940.9.27 全面的な合意を得ることとなった。

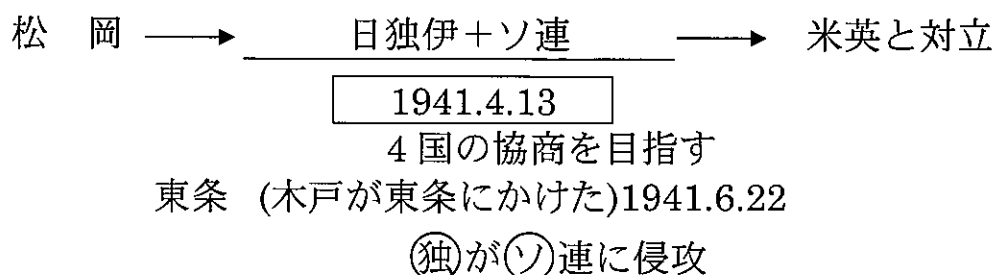
当初(1939)は、対象をソ連、英、仏に限定しようとしていたが、1940、松
岡外相は中国、南方問題を有利に解決するためにアメリカに対する立場を
強化しようと主張した。

この条約は、日本の対米英関係をさらに悪化させ、対ソ関係も日ソ中立条
約(1941.4)の成立にもかかわらず、独ソ戦の開戦(1941.6)によって期待を
裏切られた。

同盟の成立は、米英を強く刺激し、太平洋戦争突入の要因となった。

独は世界の嫌われもの

石井菊次郎(外交余録)





失敗の本質 (大局観と物量投資)

10 月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2020 年 10 月 1 日(木)

第二次世界大戦で日本が負けた原因は何であったのか。

「失敗の本質」(1984.5 ダイヤモンド社刊 野中郁次郎外著)を読んだ。

それは、**負けた要因の理論化**であり、**過去の成功体験への根拠のない依存**への反省であった。日本陸軍は、**奇襲と白兵戦**による**銃剣第一主義**(米軍は火力重視の合理的な戦い)。海軍は、戦艦大和に代表される**大艦巨砲主義**(米軍は空母と航空機による機動戦)。**精神主義**によって、**米軍の豊富な物量への挑戦**であり、既存の古い知識と新しい方式との対決であった。

大戦の始まる前に起きた**ノモンハン事件**(1939.5～9)は、日本の関東軍とソ連・モンゴル軍の交戦であり、**日本軍は大敗した**。第一次大戦における本格的近代戦の体験を持たない日本軍は、**物量戦の意味**を理解していなかった。

日本軍は、火砲と弾薬の不足に苦しみ、目標の的確な把握も欠いていた。

結局、攻撃部隊は**ソ連軍師団の大兵力による猛射**をあび、第 23 師団は壊滅の大敗を喫し、多数の第一戦部隊の連隊長クラスが**戦死**、または**自決**した。生残ることを怯懦とみなし、**高価な体験**をその後に生かせなかった。

日本軍を圧倒したソ連司令官**ジューコフ元師**は、スターリンの問に対して、日本軍の下士官兵は**勇敢**、青年将校は**狂信的な頑強さ**で戦う、しかし、**高級将校は無能(大局観か)**であると評した。

連戦連勝していた海軍が**初の敗北**を喫したのは**ミッドウェー海戦**(1942.6)であり、以後海軍は勝てなくなった。

日米を比較すると、**真珠湾攻撃の後**、戦艦、空母等で**優位**にあった日本海軍は、この海戦において、米海軍を圧倒するチャンスであった。しかし、**連合艦隊司令官(戦略)**、**作戦計画の遂行レベル(戦術)**の用兵レベルにおいて米海軍に劣り戦果をあげられなかった。

ガダルカナル作戦(1942.8～1943.2)は、開戦後初めての陸軍の敗戦であり、**陸戦のターニングポイント**となった。この敗戦も日本軍の**戦略的グランドデザイン**の欠如が目立った。

作戦司令部では、**兵站無視**、**情報力軽視**、**科学的思考軽視**の風潮があり、第一線からの個人の経験が戦略、戦術の反省と再構築に帰納的に反映されるシステムが欠落していた。

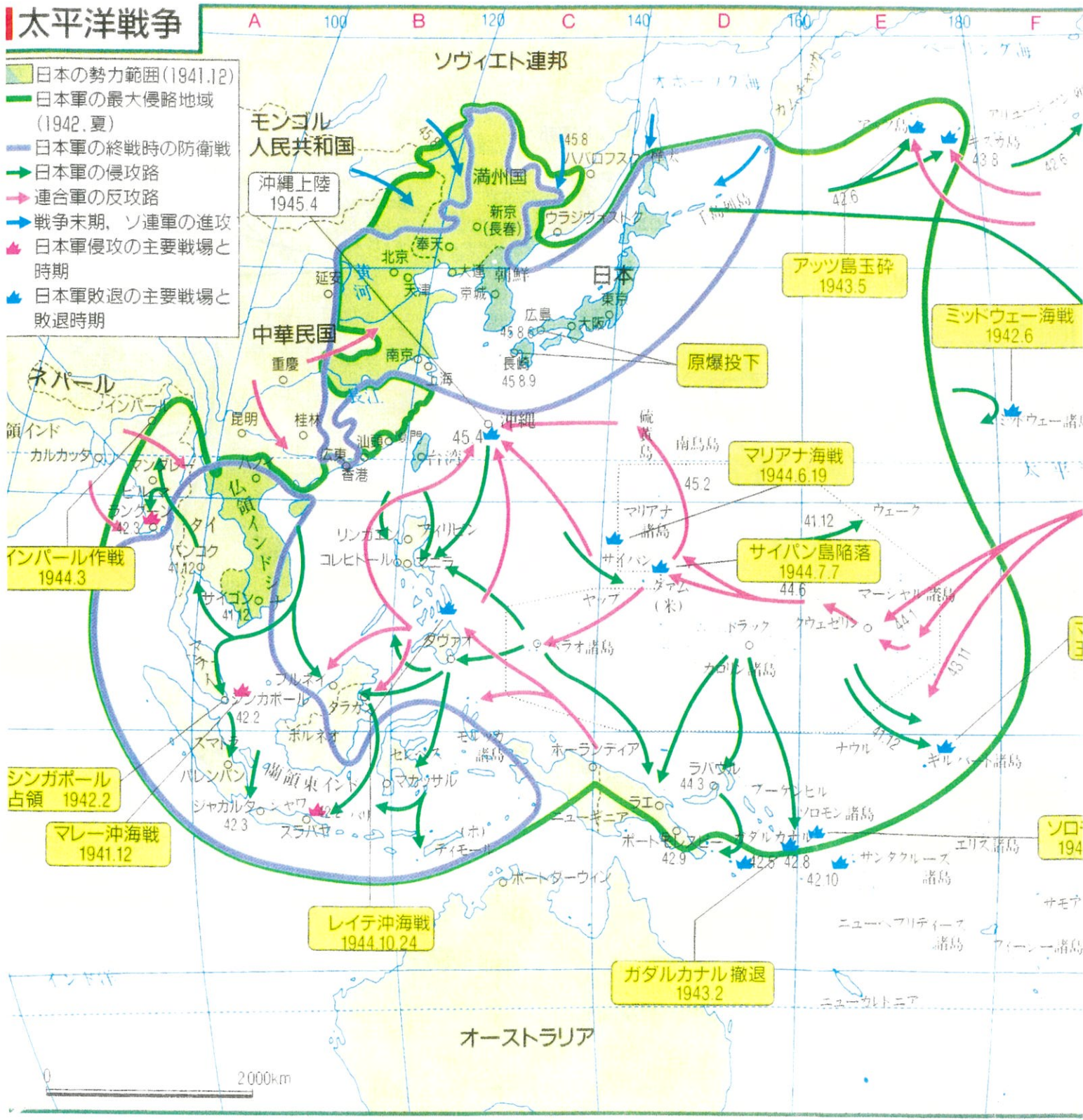
インパール作戦は、不成功の場合の作戦を欠いた成算なき**鷓越戦法**であり**源義経**も実行しなかったであろう。その後、**沖縄戦**、**レイテ沖海戦**を経て日本は無条件降伏となった。

太平洋戦争(日本軍の惨憺たる失敗)

- ① 真珠湾攻撃
(1941.12) 攻撃部隊は 11.26 エトロフを出発、攻撃は航空機と特殊な潜航艇で実施。12 月 7 日出航中の航空母艦を除き、東太平洋艦隊を全滅。海上兵力に対する航空兵力の優位。日本の最後通牒は、攻撃後にアメリカ大使に手交。米国は 12 月 8 日対日宣戦布告。(2000 人以上の米将兵が戦死)
- ② ミッドウェー海戦
(1942.6) 陸戦のターニングポイント。
日本軍は、連合艦隊の総力をあげて出撃。攻撃部隊の発進準備中に米急降下爆撃機の急襲、四主力空母、主巡洋艦一隻が沈没、航空機 300 機と多数の熟練パイロットを失う。米軍の損害は空母一隻沈没、航空機 150 機喪失。
- ③ ガダルカナル撤退
(1943.2)
(日本軍派遣部隊の 2/3、戦死者 2 万 4 千人) 陸戦のターニングポイント。情報の貧困や兵力の逐次投入。米軍の水陸両用作戦。水陸両用作戦の未開発。日本軍の作戦失敗。物資不足、マラリア感染、海戦敗北、航空隊の損耗大。連合軍は総反抗の転機。
- ④ インパール作戦
(1944.3)
(日本軍死傷者 7 万 2 千人)
(英印軍 1 万 7 千人) 雨期の到来と英印軍の反撃で作戦失敗。しなくてもよい作戦の敢行。
この作戦は日本軍の作戦指導の硬直性を示し、ビルマ防衛計画は崩壊した。
- ⑤ マリアナ沖海戦
(1944.6.19) 日米兵力間の量的質的格差の明確化。
日米の空前の艦隊決戦、米軍の損失 航空機約 100 機外、日本軍は航空機約 400 機、空母 3 隻、基地航空隊の損失。
- ⑥ サイパン島陥落
(1944.7.7) 米軍約 7 万、日本軍約 3 万の戦闘。海空からの米軍支援により日本軍全滅。以後 B29 による日本本土空襲開始。
- ⑦ レイテ沖海戦
(1944.10)
(日本軍死者 1 万人) 作戦失敗。作戦目的の曖昧さ、参加艦隊の任務把握の不充分、統一的指揮の不存在。作戦失敗。米軍の損害は小型空母等 6 隻。日本軍側は、武蔵等戦艦 3 隻、空母 4 隻等が沈没。連合艦隊は事実上壊滅。
- ⑧ 沖縄戦
(1945.4)
日本軍将兵 6 万 5908 人、
県出身軍人軍属 2 万 8228 人、
一般県民 9 万 4000 人死亡 作戦失敗。作戦目的の曖昧さ。大本営と現地軍の意思の不統一。日本的組織の全体的目的課題把握の不足。
米軍は本土進攻をスムーズに運ぶために物量を投入、日本軍は本土進攻を 1 日でも長引かせるための出血作戦。(米軍将兵 1 万 2281 人死亡)(日本 16 万人)
- ⑨ 原爆の投下 (広島、長崎の死者 210,000 人、負傷者 158,000 人)
- ⑩ 太平洋戦争の戦没者 310 万人、軍人軍属 230 万人、外地戦没 30 万人、内地 50 万人(内餓死 140 万人)
経済力の差のもたらしたもの

太平洋戦争

- 日本の勢力範囲(1941.12)
- 日本軍の最大侵略地域(1942.夏)
- 日本軍の終戦時の防衛戦
- 日本軍の侵攻路
- 連合軍の反攻路
- 戦争末期、ソ連軍の進攻
- 日本軍侵攻の主要戦場と時期
- 日本軍敗退の主要戦場と敗退時期



沖縄と中国との最初の国交

1372 年、明の太祖は、琉球へ朝貢を要求し、察度王は表を奉って臣と称し貢物を献上した。これに対し、太祖は察度に太統暦、金織等を賜り、中山と明との公式交通が開始された。

朝貢関係は大国にとっては、名を取り、実を捨てるものであるのに対し、小国にとっては名を捨てて実を取り、莫大な利益を収めるものであった。

明や次の清にも朝貢したが、両国は琉球の内政に干渉せず、その実質的独立を認めていた。

沖縄が植民地化したのは、薩摩に対してだけであった。

1388 年、モンゴル元の遣子「地保奴」が琉球に追放された。

「明実録」によれば、明の太祖朱元璋の配慮で資財を与えられ、一族と共に琉球に配流された。

江戸期、琉球には、「日本にとって、清の皇帝は父、朝鮮は兄、琉球は弟」という認識があった。日本は、弟琉球に対する支配が特に強かったようだ。

中国は有史以来、沖縄、日本を占拠、攻撃したことはなく、各王朝は沖縄、日本に対して極めて親切、寛大であった。

それに対して、日本の中国に対する態度は、余りにも目に余ることが多かった。

私は、長い歴史の過去を想うと中国とは争ってはいけないと思う。

沖縄と米国との最初の国交 (米国との修好条約)

1854 年 7 月 11 日アメリカ合衆国と琉球王国が那覇において琉米修好条約を結んだ。

当初、琉球政府は要求拒否を貫いたが、薩摩を通して幕府の意向を確認したところ、「琉球は異国であり、薩摩に委ねるが、やむなき場合は通商容認」との反応 (老中阿部正弘の時代) であった。

ペリー一行は、浦賀での日本へ開国を迫る交渉に際して、5 回延べ 85 日も琉球に滞在している。

トインビーの厳粛な一言

1. 1929 年 (満州問題) の厳粛な一言

1931 年満州事変の 2 年前の秋に京都で開かれた第三回太平洋問題調査会国際会議で来日したトインビーは、日本は一つの歴史的な運命的岐路に立っていると言った。

「満州問題に対する日本の責任は大きい、それは日本の運命を決する」という厳粛な一言であった。その言葉は、日本にして一步誤まらんか、そこをみまうものはローマ帝国と戦ったカルタゴの運命であるという洞察があった。

歴史的、運命的な岐路に立っている日本の責任は大きく、日本の運命を決する。

日本は単に中国と戦うのではなく、アメリカやソ連のような、20 世紀の産業的ローマ帝国と戦うことになるのであるという、世界文明の視野に立った歴史の教訓がその念頭に去来していたのである。

それ以後の歴史の進展は、トインビーの予言した方向に進む。

2. 歴史の進展

彼の歴史の理解尺度は、日本も、英国も、アメリカも、ソ連も孤立的には存在していなかった。

彼の見ていたものは、西欧文明であり、東洋文明であり、そしてその接触交渉であり、その帰結であった。

その尺度は、ギリシア・ローマ文明、否すべての既存文明の生起興亡の理論であった。

学び取った教訓は、その民族だけでなく、同胞である全人類のために学び取れたのである。原子力時代においては、人類は自分たちを亡ぼすまいとすれば、一つの家族となって生活することを学び取らねばならない。これこそ、日本の学び取り、そして他に教え伝えることのできる真実である。

自分の生きている時代を、高みから眺めるのは意外に難しい。ある時代を俯瞰できるのは、その時代を終わった後の人の特権である。その特権は、歴史を読むことによって行使される。

渦中にいる人々は、得てして見通しがきかない。

3. 太平洋戦争

柳条溝事件を契機とする満州事変の勃発、国際連盟からの脱退、日華事変への拡大、太平洋戦争への発展、そして、最後に原子爆弾とソ連の参戦によって、ポツダム宣言の受諾、終戦となり、占領下におかれることとなった。

そのときになってはじめて、16 年前、われわれ日本人に対して、**自らの過誤によって不幸な運命を招かないようにと、警告を与えてくれたトインビー**のことが思い出され、忘れがたいものとなった。

1933 年には、満州国問題を巡り国際連盟から脱退、日本は孤立を深め、ナチスドイツ(ナチズム)との同盟と真珠湾への道に追い込まれていく。

日英同盟を名目に第一次大戦に参戦、1915 年の対華 21 カ条の要求、1917 年のロシア革命に対するシベリア出兵...植民地帝国への道を進み、アジアの自主自尊に資する日本の選択を構想できず、欧米追従路線を進む中で、列強の番犬的な身分を、いつか忘れる行動をとったのが誤りであった。

(大恐慌と日本)

第一次世界大戦後から 1927 年の大恐慌は、日本のように経済基盤の不安定な国には、より深刻な経済危機をもたらした。日本は経済危機の解決策として軍事的活動による解決を求めた。

1931 年の満州事変により、日本経済は恐慌から脱出する方向を探り当て、1933 年には好景気になった。

戦争政策によって経済の活況をもたらした日本は大陸侵略政策にいったん拍車をかけることになった。

1937 年盧溝橋事件により、軍部の突き上げにより、日中戦争が開始され、そして 1941 年 12 月 8 日対米英戦争が開始した。

1944 年 7 月、サイパン島の日本軍は全滅し、東条内閣は総辞職した。

(高橋是清と昭和恐慌)

1927 年 (S 2) の金融恐慌では、銀行取付けの最中に金融界の救世主として蔵相に就任、モラトリウムを施行して恐慌を沈静させた。

(支払猶予)

1930 年の昭和恐慌では、1931 年蔵相となり、金融出再禁止を断行、続いて大量の国債を発行して、財政資金を呼び水にして景気にてこ入れし、国債の市場操作を通じる景気調整政策 (軍需インフレ政策) を導入して、恐慌からの脱出に成功した。

しかし、無制限な財政膨張を抑制するため、1935 年公債漸減主義に転じ、軍部の軍事費拡大の要求を抑えた。このため 1936 年 (S11) 2・26 事件で青年将校によって暗殺された。その後、日本財政は膨張の一途をたどった。

失敗の本質

2020.10.5

1. 日本軍は何故負けたのか (既存の知識の敗北)

負けた要因の理論化

過去の成功体験への過剰な依存

陸軍……急襲と白兵戦による銃剣突撃第一

(米軍：火力重視の合理的な戦い)

海軍……大艦巨砲主義

(米軍：空母と航空機による機動戦)

2. 異質を排除する精神構造

閉じ込められた組織

独善的な決定

3. 失敗から学べない体質

1931 年(S6.12)～1936 年 2 月の高橋財政

井上財政の金解禁・緊縮政策が大恐慌によって破綻した後を受けて、犬養内閣の蔵相となった高橋是清には二つの課題が課された。

(1)満州事変の戦費捻出

(2)大恐慌対策

1931 年 12 月 13 日①蔵相就任当日に金融出再禁止を実施し、金本位制を停止して、管理通貨制へ移行し、積極財政展開の前提条件を整えた後、翌 1932 年度予算を②軍備拡張と土木事業を中心とした時局救済膨張予算とし、財政赤字を日本銀行公債発行でまかなった。こうした財政展開により景気を大きく回復させ、世界史上初のケインズ主義的財政政策と評価された。これはケインズが主張した有効需要創出策を経験的に先取りしていた面がある。為替は 2 円弱から 3 円弱で安定、金利は 6.57%から 3.65%に低下し、企業利益の拡大、輸出の増加、株価の上昇をもたらした。

4. ノモンハンの大敗

1939年(S14)7月12日師団命令は砲兵全力の展開を待った後、攻撃を開始し、一挙にハルハ河東岸のソ連、外モンゴル軍の陣地と西岸台上のソ連砲兵を撃滅するというものであった。

砲兵を主体とする第23師団の総攻撃は7月23日から実施されたが、予定された成果を挙げることはできなかった。それは**火砲と弾質の不足**であり、**目標に対する搜索の不足**であった。本来、無理な攻撃と作戦であった。第23師団(関東軍15,000人)は壊滅した。

第一次大戦における本格的近代戦の体験を持たない日本軍は、**物力の意味**を理解していなかった。

結局攻撃部隊は、ソ連軍砲兵の猛射をあび、大損害を出し、攻撃は停頓した。

1939年(S14)5～9月関東軍とソ連・モンゴル軍とが交戦、日本軍が大敗7月23日の攻勢失敗後も兵力の増強を図り、第三次攻勢を準備した。

ソ連軍は、8月20日からソ連、戦争師団の大兵力による総攻撃を開始し、日本軍は第23師団壊滅の大敗を喫した。

おりから9月1日欧州で第二次大戦が勃発した。

大本営は攻撃の中止と兵力の後退を厳命。9月15日モロトフ外相と東郷茂徳大使との間に停戦協定が調印された。

当時(7月下旬～8月上旬)、の日本軍においては、**観念的な自軍の精強度に対する過信**が上下を問わず蔓延していた。

8月のソ連の作戦は、日本軍の両翼に強力な打撃を加え、ハルハ河東岸の国境線に捕捉して、包囲殲滅することであった。そして、8月20日朝、総攻撃を開始した。

その結果、多数の日本軍第一部隊の連隊長クラスが戦死し、自決した。

日本軍は生残ることを怯懦とみなし、**高価な体験**をその後に生かせなかった。

日本軍を圧倒したソ連第一集団軍司令官ジューコフは、スターリンの問に対して、日本軍の下士官兵は、頑強で勇敢で、青年将校は狂信的な頑強さで戦う。しかし、高級将校は、大局観に欠け、無能であると評価した。

ノモンハン事件で戦車部隊を指揮し、後に元師になり、ソ連軍内部の信望がきわめて厚かったジューコフ元師の言葉である。

Excel での時系列分析

2021.2.8

1. 時系列データ

時間 (時、日、週、月、年) とともに変化することがある

2. 予測は適切なモデルと以外に不可欠な行為である

予測する将来の時点に 内挿ではなく 外挿 である

3. 予測問題

(1) 数値予測

明日は、110%は何個売れるか

(2) 判断予測

○か×かの判断、合格、有無

ディフuzィンク

多変量解析

(3) 最適予測

適切な組合せの予測

※ 数値予測

(1) x, y 両連法

$$y = a + bx \quad (\text{回帰分析})$$

(2) y 単独法

$y_1, y_2, \dots, y_t$ がある y_{t+1} は y_t を予測する

5. 预测手法

最近予測法を学ぶ

6. 時系列データの4つの基本パターン (変動要因)

(1) 傾向変動 (Trend) ↑ ↓

(2) 循環変動 (Cycle) 上昇
周期的変動

(3) 季節変動 (Seasonal)

(4) 不規則変動 (Irregular) ノイズ

突然の出来事による変動
急激な増減による変動

7 時系列分析

時系列の経過、傾向、規則、乱れを分析

傾向変動、循環変動、季節変動、不規則変動の4つの変動要因の分析

8. 時系列分析

全体的傾向を構成される

過去の傾向を分析し、今後の予測に活用すること

長期的な増加や減少、季節変動の傾向

原型となる時系列データ + 将来の推定

傾向の組み合わせ、特性の検出

9. 時系列データの組み合わせモデル

(1) 加法モデル

$T + C + S + I$

4つの変動要因の和

(2) 乗法モデル

$T \times C \times S \times I$

10. 季節調整

移動平均法による季節調整

11. 12ヶ月中心化移動平均

(1) 2014.1 ~ 12の移動平均を求めよ

(2) 2015.1 ~ 12の移動平均を求めよ

(3) 2015.5と2015.6の平均を求めよ

回归分析

Excel

(原因と結果)

2020.12.07
2020.04.27
2020.08.20

1. セルA5をコピーして → セルB5に貼り付け

Excelでは、セルの参照に相対的な位置が用いられる — 相対参照

計算する数字は、元のセルといふだけ高い位置にあるか — この表現を内部で行っている

従って、B5をコピーしても、A1からA4の合計では無く、B1からB5の合計が計算される。

2. 絶対参照 A5を絶対参照で表現すると F4キー

「\$F\$4」を前に付け、「\$A\$5」となる

A\$5と書くと、横方向のみ(行)、絶対参照、

\$A\$5と書くと縦(列)のみ絶対参照となる

3. 計算式 =PMT(\$C\$2/12, \$B5*12, C\$4)

PMT内書込は、利率、ローンの期間、ローンの元金に基づいて、ローンの支払額を決定する

\$C\$2 — C2セルの利率

\$B5 — B5列の返済期間

C\$4 — C4行のローン支払期間

4. 関数, SUM

SUM(引数) 引数 — ひきすう, 関数が対象とするセル範囲, 値

$$= \text{SUM}(A1 : A4)$$



5. 平均 $\bar{X}$

$$\bar{X} = \frac{1}{n} (X_1 + X_2 + \dots + X_n)$$

$$= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$$

6. 母集団と平均

7. はらひつき

8. Xの値 (中央値) MEDIAN

2020.12.7

9. Xの値 (最頻値) MODE

10. AVERAGE (平均値) = AVERAGE (---)

目的のセルを

選択し、

コピペ

→

→ 1行目の
セルに貼り付け

11. 分散 σ^2

Variance

(VAR)

$$\sigma^2 = \frac{1}{n-1} \{ (X_1 - \bar{X})^2 + (X_2 - \bar{X})^2 + \dots + (X_n - \bar{X})^2 \}$$

$$= \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2$$

--- 標本分散 (n)
--- 不偏分散 (n-1)

分散とは、XからXの平均を引いたもの (散らばり、偏差) の2乗値を平均したもの

わざわざ2乗するのは、XからXの平均を引いたものには、プラスもあれば、マイナスもあるので、これを平均しても散らばり傾向がうまくつかえなくなるからである。

12 $n-1$

?

✕

分散の標本数がある n ではなく
 $n-1$ であるのは、分散を求める前に、平均を

求めたことにより、データの情報量が一つ減ることを考
えらなければならない。このことを自由度と呼ぶ。

分散の値が大きいほど、データが散らばるの程度は
大きい。

13. 標準偏差

Standard deviation

(STDEV)

分散は、2乗した値であるので、

元の数と同じ単位を表現するために、

分散の平方根をとるものを用いる

これを標準偏差と呼ぶ

$$Sx = \sqrt{Sx^2}$$

$$= \text{VAR}(D3:D17)$$

$$= \text{STDEV}(D3:D17)$$

14. 共分散 Δ_{xy} covariance

2つの変数を一つの組と考えた時の分散

また、2つの変数間の関係を示す統計量

2変数データの組 (X, Y) の平均を $(\bar{X}, \bar{Y})$ とすると

平均 $(\bar{X}, \bar{Y})$ から各組の散らばりを示す統計量

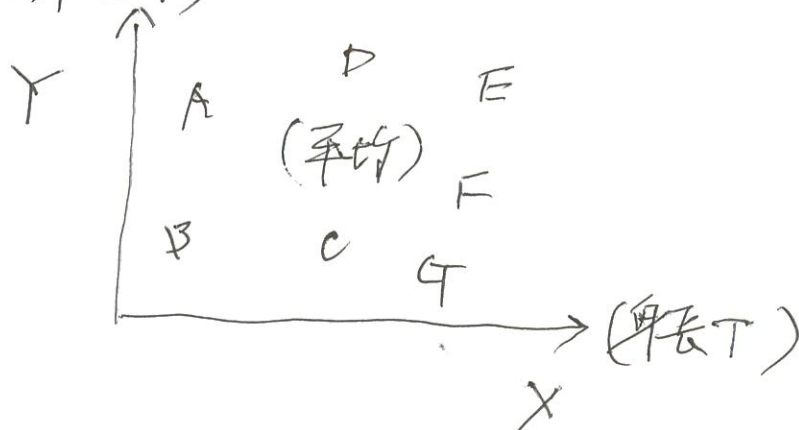
すなわち、2変数版の分散を定義することから

$$\Delta_{xy} = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{X})(y_i - \bar{Y})$$

共分散は、2変数を一つの組と

考えたときの組の散らばりを示す。

(体量 W)



8 日本課題

デジタル技術も前提といは新しい技術も考える
(と脱炭素化)

2021.02.08
2020.12.20

1. デジタルを自認せし、強みにこの場に応用する力、

デジタル戦略

2. コロナ禍で見えた デジタル化という

目下最大の当り前

GoToトラベル 4000万人の利用

デジタル化の基盤となるインフラ整備 — マイナポータル: 保健、
通称「デジタル」の一本化

3. グリーンとデジタルの両輪

4. グリーン化を中核に

日本の生産性の低い理由

太平洋戦争における日本軍

待避の態をと
受け止める

日本は世界28位

中小企業が多い、

全社数 992万、従業員数 68.8%

大企業の生産性 826万円/人
中小 420万円/人

5. 中小企業は日本を富めるという錯覚を考へ

型模範小企業 企業化の器
代生率性

老練社員の
おいて

平均24人

この型模範は IT の活用を要する、

サイバー化を1人席とみる

この型模範の分類は必要とする

2-4人の企業は IT の活用を要する、

生産性向上のための企業型模範

研究開発に投資

最低賃金 — 先進国の中で最低水準

最低賃金 500円超 — 日本は342円



企業化の必要とされる生産性を高める



企業化の成長を促す。

中小企業は長らく、企業化の増加、維持を目標に

してきた。それは正しい

これは大企業競争力の失却の原因の一つである。

6. 日本の課題

矢野 平哉

① インフラ基金

5G基地局を構築するためのインフラ整備
基金の活用が重要

② グリーンGDPの投資

環境対策に投資機会を拡大

③ 社会保障の持続の考え

人口減少の大型模範を導く

7. フォワード・フォーミュラ化へ進む

8. 不確実性

ランダム性

ポストバブル

本邦のリスクは、不確実性のものの中にある

人や組織の心理の中に存在する

ESG 投資、グリーン投資、ふるさと 投資ファンドと金融機関の行動

講 師 慶応義塾大学経済学部 名誉教授 吉野直行氏

紹介者 沖縄国際大学経済学部 教授 島袋伊津子氏

(参加者 21 名)

今年最初で、また今年最後の第 89 回勉強会が、吉野直行先生のおかげで実施できた。先生の財政、経済、金融の豊富な知識と海外でのご経験と目もくらむようなご経歴の下、流石に本日のご講演の内容は素晴らしく、沖縄事業再生研究会の勉強会はコロナ禍に勝った、という実感を持った。

ご講演の内容を要約すると、

- (1) 世界経済の中での拡大する中国の位置は、GDP 総額を見るのか、一人当たり GDP を見るのかは別として米国と並ぶ世界の 2 つの中心である。そのような世界経済の中で見る日本経済の現況には問題が多い。例えば米英と比較した家計金融資産の成長の低調さは投資信託などの運用力の差であり、日本の金融資産の収益高の減少は著しい。日本の高齢化比率の増大、高齢化による金融政策の有効性の低下など多くの問題点を抱えているのが現状である。経済政策の投資拡大効果から見ると、デフレの加速、住宅投資の減少、高齢者の著しい増加が経済に影響を与えている。
- (2) ケインズの財政政策も、高齢化の下では働かないということだ。高齢者は既に退職しており、雇用が増えても人手不足が増加するだけになってしまう。1950 年代は、平均 50 歳で退職してだいたい約 54 歳で死亡、従って年金支払は少額であった。現在は 55~60 歳で退職して、だいたい 80 歳代で死亡で、年金の支払は多額になる。
財政政策の効果の点から見ても、高齢化社会は 0.55 倍の投資効果、若い世代は 1.5 倍の投資効果があると、筆者らの研究から読み取れる。
人口高齢化への対策としては、生産性に応じた賃金体系(若い時には高く、高齢になるに従って低くする)の変化が必要であり、年をとっても働き続けて社会に貢献するという考え方を定着すべきである。年功序列は良くない。
- (3) 日銀のマイナス金利政策と政府債務の GDP 比率の高さとギリシャの財政破綻と比較して考えると、外国人による国債の保有比率による差が様々な影響を与える。国債の需要構造が、ギリシャは 70%が外国人保有、日本は約 10%程度なので、ギリシャの国債の外国人保有比率の高さが金融危機をもたらしたと考えられる。ドーマー条件(利子率が経済成長率よりも低ければ財政破綻は起こらない)は、財政の安定性を示す指標として使われるが、米国には当てはまるが、他国に当てはまらないとのことだったが興味深い話であった。アメリカ以外の国では、国債の需要が安定しているかどうか、国家破綻を考える場合には、重要な要素であるが、ドーマー条件には、国債の需要要素は含まれていない。
- (4) SDG 投資の問題点は、どのようにしてゴールを達成するか、の欠落にあり、ESG の定義と評価のコンサルティング会社間の不統一にある。統一的なグリーン格付けの必要性、グリーンボンドの定義の明確化が必要である。現行の SDG 投資の推進では、最適資産選択を歪める可能性があり、ESG の目標 (Environment, Social, Governance) は 3、SDG では目標を 17 に増加しているが、実効性の変化はない。環境格付けの厳格化と国際的な政策が必要である。
- (5) 地域金融のジレンマ、貸出供給の競争激化と借入需要の減少による利ざやの減少。地方の高齢化による借入需要の減少、需要の減少にもかかわらず貸出先銀行数は変わらない、そのために銀行の利ざやは減少している。地銀は、資金需要の創出や中小企業の起業を促すことが必要である。

- (6) スタートアップ企業への期待と「ふるさと投資ファンド」への期待
地域の活性化、地域の中小企業、起業家の事業支援のためにも必要である。
- (7) 土地信託のインフラ整備への活用と地域開発と開発地の周辺の発展を考えると、例えば、現在単線であるモノレールの環状化による周辺地域への波及効果の促進とその可能性の試算などの検討も必要である。インフラ整備により、駅周辺地域の経済活動の活発化が、もっとも重要である。
- (8) 英国の EU 加盟と離脱、共通通貨の成立の条件
財政の移転が出来なければ共通通貨（ユーロ）は成り立たないとサッチャー首相の経済顧問であったウォルターズ教授は言っていた。このため、イギリスはユーロに加入しなかった。
- (9) デジタルネットワークの重要性と、地方の発展の促進、インフラの維持、補修費と使用料金の波及効果による税の増収の国と企業への分配などについて
デジタル化は中小企業の売上を促進することが出来る。大企業に比べて製品を売るための販売網が貧弱な中小企業にとってデジタル化は大きな味方である。デジタル化によるネット販売により、地方や離島の産物でも、ネットで注文を受け、大都市にも販売できる。そしてインターネットを通じて販売される製品が、高品質で値段も妥当であれば、顧客は繰り返し注文することになるだろう。その販売は、海外にも向けることが出来る。デジタル技術の使用により、従来であれば、販売網がなければ売れなかった商品でも、生産と消費を直結させる販路を作り上げることが出来る。

(10) 人材資本開発とその影響の評価、デジタル技術の重要性と質の高い教育

日本の社会の生産性、効率化をひきあげるため、社会的な慣習を改善する絶好のチャンスである。企業間の競争も、中小企業の売上の促進も、教育の効率化のためにも必要である。インターネット授業では、全国でトップの教え方の先生により、各教科を、日本のどこに住もうが、受けることができるようになる。教育の質の向上と将来の日本の生産性の向上を生み出すことになる。どのような家庭環境でも、スマホで、日本トップの教え方の先生から学習できれば、塾や予備校に行かなくても、分かりやすい講義を聞いて勉強できるようになる。

等、世界各地へ行かれたご経験から来る有益で解り易いご説明は参加者を魅了し、受講者は熱心に耳をかたむけ、ノートを取る姿や雰囲気は従来とは違ったものがあつた。

バブル崩壊期における影響は、土地や株を取得できる社会の上位層部であつたが、コロナ禍の中では低所得の低位層を襲った感が強く、低所得層の底辺が拡大するように思う。この様な状況に対して長期的な経済成長を実現するためのデジタル教育の役割は大きなものがあると思った。

ご多忙な先生に唐突で、失礼ではあると思ったが、沖縄事業再生通信(株式会社きんざい発行 季刊 事業再生と債権管理)に 4 月 5 日春号の記事をお願いした。テーマは、“コロナ下の地域経済活性化における環境変化と沖縄のチャンス” といった内容で、吉野先生のご快諾を得ることができた。



このような素晴らしい吉野先生のご講演をご紹介いただいた沖縄国際大学経済学部教授の島袋伊津子先生にも心から感謝したい。(山内記)

7. 不確実性の存在や影響を考慮すれば、

短期的な結果は振り回されることなく、

長期的な成功の可能性を高めることが唯一の解決策となる

太平洋戦争の日本軍

不確実性に対する対応策

アベック・フィッシャー

8. 勘や直感を計るに不十分な世界になった

→ 数値データ → どうやって

→ データ分析 (データの有効性の活用) ^{見きわめと}

中国の課題⑧

3. 中国の関税率は 現在為替に操作される
 関税の10% - 税率を10% 下げる

中国の金融市場の自由化

- ① 資本移動を自由化していきたい
- ② 貨幣を自由に管理している
- ③ 為替政策と 経済成長をと
- ④ 他国のいいものを取り入れる政策

元々

② 為替政策

4. 対外金融資産の推移

	<u>1995</u>	<u>2014</u>	
米国	/	2.04	投資信託の成長 ---- 複利 ---- 単利
英米	/	2.74	
日本	/	1.45	

(1) 運用力の差 投資信託

日本は売却の手数料を払って終り

(2) 各には、収益、損失を分配する形になっている

経済、株式の上昇と連動している

(3) 危機を越えて、経済の成長を取る。

③ (自己責任)

5. 高齢化と経済、年金 ~6

⑤日本人口の減少

(1) 1950年代は、平均50才で退職して
たいてい54才で死亡

(4年)

従って年金支給は少額だった

(2) 現在は、55~
60才で退職して

たいてい75~
80才で死亡

(20年)

年金が格段に増えた

6. 高齢化による金融政策の有効性の低下 ④高齢化

非高齢化社会 85%が若年者や若年層

高齢化社会 55%が若年者 ?

伸び
直線的(上昇)
(比例)

固定化 (低位停滞)

8. 高齢化と投資効果

行方不明の如き

投資(生産)の減少

政策と格差の拡大

10. 財政政策の効果

⑥ 財政政策の効果

高齢化社会

0.5倍の投資効果

若い社会

1.5倍の投資効果 (未12)

11. 高齢化への対策

⑦ ポリシー

(1) 生産性に応じた賃金体系

(2) 年金取入れもよく、しかし賃金は下がる

12. ケインズの財政政策も高齢化の下では効かない

高齢者は退職しており、雇用も増えなかった

人手不足が増え対策が必要

13. 又付ス金利政策

金利の低減に又付ス金利に付ス

15. 政府債務のGDP比率

100% 基準

日本 230%

2.3倍 (対GDP)

アメリカ 145%

ドイツ 120%

イギリス 115%

⑧ 70年度以降の年

年度の増加率

3年後

5年後

6.5% ✓

17. 日本国債の保有者の比率 ⑨ 外債の内訳

	外に個人保有	国債	国債外
1年以内	69.7%	9.9%	20.4%

1年超	5.6%	46.6%	45.2%
-----	------	-------	-------

外に個人購入
 国債は為替
 にもよるため

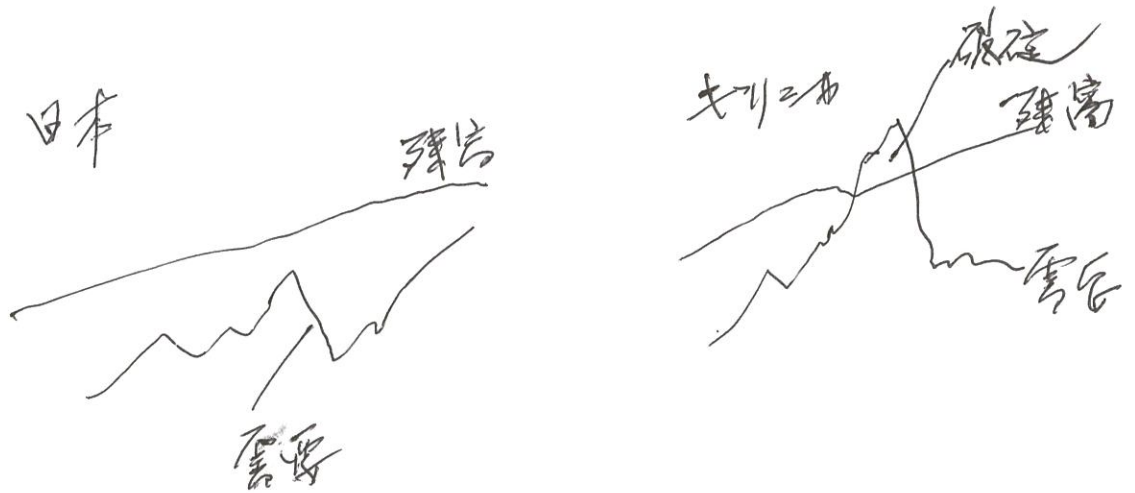
国債	12.2%	43.2%	43.2%
----	-------	-------	-------

18. トーエ-条件と財政の安定 (アキハルが考えたこと)

利率 $\uparrow$ > 経済成長率 $\rightarrow$ 不況の発端

利率 $\downarrow$ < 経済成長率 $\rightarrow$ 安定 (日本の財政)
 ?

19. 日本企業の海外展開を考慮した 海外の進出戦略



20. SDG 17 Goal

ESG 3 Goal

自社(分)の思っている

ことに入っている

最適投資の選択が行われる

ものによって変わってくる

何となくのうちに達成される

入っている、自己満足では無い

Environment

Social

Governance

目的がある

現行のSDG投資の推進では、最適投資の選択と適切な可能性

環境格付けの厳格化、あるいは環境税による政策の強化

が必要である

(SDG評価の統一性の必要)

一部のエンサイルタ/会社の評価基準では充分ではない

環境税の厳格化等による政策推進も必要である

(間接的な規制)

⑥ 孫子兵法

2021.02.08
2020.12.07
2020.07.20

I 始 計

謀七書と云て、孫子、吳子、六韜、三略

事前の研鑽を見過し

尉繚子、司馬法、李工に内注と
あり、他の六つは孫子の註釈と
云へども、
海音亭翻五部

戰爭に必要を得ずるもの

1. 5つの基本問題の真の理解 (原則、根拠の把握)

道

上下を一心同時に事にするもの / 大義名分

天

~~精微の条件~~ / 天の時

地

~~地形の有利不利~~ / 地の利

将

~~将帥の器~~ / 組織のリーダー

法

~~組織~~

伍子胥の圍同に於いて、吳と楚の争を
陥し、首都の郢に攻め込むと云い、
孫武は、一民を治る、未だ可成らず、方を経て

それ、

2. 7つの基本条件

(1) 君主はどちらかの立派な政治を行ってゐる

(2) 天の時と地の利はどちらかの有利

(3) 将帥はどちらかの有能

(4) 法令はどちらかの徹底している

(5) 軍隊はどちらかの精強 (6) 士卒は (7) 将帥の公正

表—2

校量七计比拟表

内 七 计 性质	用 兵	企业经营管理
主孰有道	哪一方的国君比较贤明？	哪一个企业的上级决策机构及其主管更英明？
将孰有能	哪一方的将帅比较有才能？即有智信仁勇严之能。	哪个企业的领导德才素质更高？
天地孰得	哪一方占据比较有利的天时地利条件？	哪个企业（或产品投放地）所处的政治经济环境、地理位置更据有利条件？
法令孰行	哪一方的法令能切实贯彻执行？	哪个企业的条例、条令、规章制度更能有效地贯彻执行？
兵众孰强	哪一方的军队实力强盛？	哪个企业更有实力？包括职工队伍的素质，各种资源（资金、人力、物力、技术、情报等）的数量、质量。
士卒孰练	哪一方的士卒训练有素？	哪个企业对职工培训抓得更有成效，职工技术操作能力更高，文化业务素质更强？
赏罚孰明	哪一方赏罚严明？	哪个企业奖惩赏罚更严明、更有成效？

4 孫子の兵法 (守屋洋) (海音寺潮五郎)

2020.06.15

2020.07.20

戦争⑪ 動と静の組合せ

環境のオの致

1. 故に兵は詐を以て立つ、利を以て動き、

分合を以て変ずる者なり

兵は環境に左右される。故にけられてはたぬ

2. 長から臨機応変

何に於いて ----- 致ではなく 環境に於いて

その疾きとは風の如く、その徐かなきは木の如く、

侵略するは火の如く、動かさずとは山の如く、

知り難きとは陰りごとく、却くとは雷霆の如く。

3. 迂直、計を先知する者は勝つ、此れ兵法の法なり

孫子は故を環境と見てゐる

4. 敵の志気が旺盛なれば、戦いを避ける。

志気の衰へたるを待つ

これを掌握するとは、これを待つ

5. 无邀正正之旗，勿击堂堂之陈。此治变者也。

6. 围师必阙，穷寇勿追。

围师必阙，穷寇勿追

7. 军争之难者，以迂为直，以患为利。

故迂其途而诱之以利，

后人发，先人至，此知迂直之计者也。

8. 故军争为利，军争为危。

举军而争利则不及，委军而争利则车留重捐。

是故卷甲而趋，日夜不处，倍道兼行，百里有争利，则擒三军将；劲者先，罢者后，其法十一而至。

五十里有争利，则蹶上军将，其法半至。三十里有争利，则三分之二至。

是故军无辎重则亡，无粮食则亡，无委积则亡。

空城の計

読心術、予想(外)の活用 (心理の) 戦は予想をくが

① 関東の大军と赤坂城の対峙は予想をくが

② 義経の屋嶋攻撃の連攻、連攻

戦力の集中と分散 ③ 辻参謀のズレ攻撃

一点集中

④ 孫子の揣摩の術 (蘇秦の策、張儀の策)

⑤ 太公望の陰符 (老子、韓非子の道徳の道)

⑥ 韓信と趙の軍、河を指して... 兵を死地に

戦いの地、戦いの日を定める

勝つに勝つに生れ、七地に勝つに生れ

勝利の条件は人にかつくる

⑦ 漢田横表

水は高いところを避けて、低いところに流れてゆく

戦争も、水の流れを避けて、相手の手薄をつく

迂直の計

急を以て回れ、

遠征軍のハンデ

孔明は如何に智謀をもつてても

結局、敵と争うのはねいて、環境を争うのはねいて

8. 必先正殺心也。必先正屬心也。

9. 将の過ち (11-ランニングを欠くこと)

(1.) 必死は知れど

(2) 以空行爲一行

(v) 念連中. 侮以了

(4) 廉潔に辱められた

当然のこと強調しすぎはナシ

楚の花王^(イ) 愛花は 大花女と云ふ

当然のこと強引に押し付けはダメ

春秋時代の楚は、揚子江流域のほとんど全部を占めていた。

当時の都は 鄧(工)であった。中原の諸侯会議にも参加を
許されぬといふのあったが、莊王が来て にかか-に隆盛となった。

その値に於て年酒客と客樂に遊樂してゐた。

「諫言好人互相者ハ、斬る」

伍孝という者が、ある日、王の宴席に参り来て、

[illegible]

伍拳は言う、「三年下はす」年鳴きませ。この鳥は

三年ではず、三年巻のすせ。……シ度と書いては
みけ腰を振出すいあらう。しかし値越といふ花王の
行松は改めず。卷々逆巻にふけていくが、
今度は大矢の蘇従也。狂奔よろめ倒れても（直ぐに）
凍めた。花王の如く立上りて剣を抜いた。
○法 一同蘇従の首をはらふとどつた。

孫子の合理的考察之序

大正は、剣道一灯に水鼓のついでを
七の払い 政事堂で政務省見はれた

侮辱と暴行を引当として既に作し、
数回人を誅殺し、数回人を登腐作。

莊元は、国の郊外の館に式を行ない

前秦の

問の九鼎の重さはいくらなんぞ？

使者に伺て、九弊なくとも、拒否にたてつけやせんぞ。おしひめは
武器の折しはしを果ててもつくしる。

陽性生肌 陰性發毒

(1) 絶滅 絶壁のタリを $\frac{1}{2} + \frac{1}{2}$

(2) 天井 深(露)以和差地

(3) 天牢 三石如險阻，脫出困難如行

(4) 天魁 草木如寇仇、行部困难如此

(5) 天福 湿润の纸地に 透行困難あり

(6) 天際 山内部の100m以上は30

5. 緻密な観察方法

⑩ 地形 将軍の役目、地形は状況、環境である

1. 6種類の地形

- ① 通 四方に通じている地形
先ず、南向きの高地に拠り、補給線を確保
- ② 挂 進行するに容易いから、撤退するのは困難、先手必勝
敵の先手なす、進行するに不利な地形
- ③ 夾 双方に挟まれ、進行するに不利な地形
我が方と敵の間に挟まれ、敵の補給線を断つ
- ④ 隘 隘 入口が狭い土地、入口を固める
我が方先手を取って、先手を止める
- ⑤ 険 険 険阻な土地、南向きの高地に布陣
我が方先手を取って、先手を止める
- ⑥ 遠 本拠から遠く離れた地へは慎重に

この6種をゆきまえて、対応するから 将の役目である

2. 軍の敗戦する場合 天の災いではなく、将の過失 将に諸般の過失

- ① 走 一の力と戦う個員に力がある
- ② 弛 兵は強いが、幹部が弱い場合
- ③ 陷 幹部は強いが、兵が弱い場合
- ④ 崩 上層部の折衝がうまく悪い場合
- ⑤ 乱 将の軍の統率を失っている場合
- ⑥ 北 将師が敵軍を把握できず行かれている場合

2. 敵情をさぐり出すには、

(1) 神に祈るなり

(2) 石壁に頼るなり

(3) 星を占う わけあるなり

あゝなる人間を使ひてさぐり出すのである
孔明

3. 以て一日の勝を争う

4. 敵の百金も盗み取て敵の情を知らずして、

不仁の至りなり

(1) 郷内問 — 各々の領民を使ひて情報を集める

(2) 内問 — 各々の役人を買収して情報を集める

(3) 反問 — 敵の問答から得る

(4) 死問 — 死を覚悟して、敵に誘入し
二重の情報を流す

(5) 生問 — 敵に生還し情報を伝える

5. 始皇帝の問答長考

秦の問答の印を重視している。

原文

战争... 兵 - 人... 兵... 大前氏... 兵不是战争, 也是人找. 因为(口)家来说, 人是最重要, 人不可能没有... 计才 - 五事七计... 战争(地)与战争

孙子曰：兵者，国之大事也。死生之地，存亡之道，不可不察也。

者, 也
所谓, 是

故经之以五，校之以计而索其情：一曰道，二曰天，三曰地，四曰将，五曰法。道者，令民与上同意也。故可与之死，可与之生，而不诡也。天者，阴阳、寒暑、时制也。地者，高下、远近、险易、广狭、死生也。将者，智、信、仁、勇、严也。法者，曲制、官道、主用也。凡此五者，将莫不闻，知之者胜，不知者不胜。故校之以计，而索其情。曰：主孰有道？将孰有能？天地孰得？法令孰行？兵众孰强？士卒孰练？赏罚孰明？吾以此知胜负矣。

诡辞
guǐ biàn

亡
wáng

将听吾计，用之必胜，留之；将不听吾计，用之必败，去之。计利以听，乃为之势，以佐其外。势者，因利而制权也。

兵者，诡道也。故能而示之不能，用而示之不用，近而示之远，远而示之近。利而诱之，乱而取之，实而备之，强而避之，怒而挠之，卑而骄之，佚而劳之，亲而离之。攻其无备，出其不意。此兵家之胜，不可先传也。

夫未战而庙算胜者，得算多也；未战而庙算不胜者，得算少也。多算胜，少算不胜，而况于无算乎？吾以此观之，胜负见矣。

yi

将 jiāng 将军 jiāngjūn 仁 rén

卑 bēi

必 bì 察 chá 考察 经 jīng 考察 校 jiào 比较相仿 者, 也... 所谓

危 wēi 佚 yì 逸 款 shuǐ 就是 挠 náo 阻止 mò 莫 wú 吾 无

存 cún 亡 wáng 矣 yǐ 了, 啊, 仁 rén 此 cǐ 彼 bǐ 这个 fú 夫 this



扰 rǎo 兵不扰民 能. 能. 能. 佐 zuǒ 阴谋 yīn móu 诡计

士 shì 卒 zú 寒 hán 暑 shǔ 庙 miào 算 suàn 索 suǒ 寻求 赏 shǎng 罚 fá

古代 - 一字(告) - 词 震 zhèn 害怕 危 wēi 危险 武松: "杀人者, 打虎武松也."

一者, ... 也 所谓, 是 三十六计, 走为上计 做为 挠 náo

所谓, 是 卑 bēi 挟 xiá 窄 zhǎi 西 xī 抢夺 qiǎng duó 奢侈 shē huá 逃跑 dǎo pǎo 防备 fáng bèi 守备 shǒu bèi 意外 yì wài 来 lái 何 hé